PD Headline 3

革新的な意見交換

全日本ラリー選手権 JN-1ミーティングを定期的に開催

Text & Photo：PLAYDRIVE（編集部）

今シーズンから、新たなクラス区分として全日本ラリーに組み込まれたJN・1クラス。FIA公認車両やJAF公認のJP4車両など、FIAが定める安全規定や車両規定に合致した車両が出場する、いわゆる〝国際基準〟のクラスだ。昨年、RJ車両やRPN車両のGRヤリス、WRX STIと同じクラスで走っていたFIAラリー2車両（旧R5）やAP4車両などのFIA・ASN公認車両と、今シーズン新たにルール化されたJAF公認車両のJP4車両が出場するクラスで、いずれも安全規定がFIAの規則に合致することが条件となり、ラリーに出場するための自動車臨時運行許可標（通称・仮ナンバー）での出場となるのが大きな特徴だ。

この大きなクラス区分改定にあたり、JAFは全日本ラリーに技術アドバイザーを派遣することを公示。昨年のWRCラリージャパンでFIAテクニカルのサポートを務め、CUSCOワールドラリーチームのマネージャーとして海外ラリーを転戦している杉村卓哉氏が、第2戦新城ラリーから現場で様々な事案に対してアドバイスを行っている。第3戦唐津ラウンドからは、JN・1クラスの車両は通常行われる車検のほかに、実際のWRCで使われている車検のチェックシートに記載されている項目の車検を実施。だが全日本の日程では全項目をチェックするのは時間的に不可能なため、各ラウンドでチェックする項目を抜粋して決めていくという。各ラウンドでチェックしていく項目は非公開で、車検に合致しない部分、あるいはレギュレーションの解釈が分かりにくい部分に関しては、シーズンをとおしてアドバイスを行っていき、改善を図っていくという。

さらに、第3戦唐津ラウンドでは、JN・1クラスに出場するチームの選手とチームマネージャーが集められ、「JN・1ミーティング」を開催。杉村技術アドバイザーと高桑春雄JAFラリー部会長が同席し、規則の解釈やルールの運用について、積極的なディスカッションが行われた。

JAF任命の技術アドバイザーに就任した杉村卓哉氏。各ラウンドの派遣については、JRCAがその費用の一部を負担し、シリーズ全戦で規則の解釈や運用の統一化を目指す。

今シーズンからJAFラリー部会長に就任した高桑春雄氏。「将来的に、JN-1車両がWRCラリージャパンにも出場できるように、規則を整備していきたい」とコメント。

今回のミーティングでは、ウエット時におけるタイヤカットが認められているFIA公認タイヤでの実際的なカットの運用方法や、安全タンクに給油する際の注意点やメカニックの派遣の有無、国土交通省によるラリー出場のために必要な自動車臨時運行許可標の提示方法の規制緩和などが伝えられた。また、レギュレーションの解釈や実際の運用など、積極的な意見交換も行われた。

現状、FIA公認車両やASN公認車両を国内で運用する場合、日本の法規と合わせる際に解釈が難しい部分、また新規の車両区分となるJP4車両に関しては、規則が追いついていないところもある。そういった部分が、いわゆる規則の「グレーゾーン」となるケースがいくつかあったが、今回のミーティングではそれが白か黒か、はっきりと分かりやすくなったことは確かだ。今後、ルール化することが必要な案件に関しても、今回のように法規でいえば〝通達〟のような形でエントラントに告知することで、規則化もスムーズに行われることだろう。

このJN・1ミーティングは、今後も全日本ラリーのなかで定期的に行われるという。ルールを整備することで、JN・1クラスがさらに発展していくことに期待したい。